

ダクト発生0~7エリア間オープン

2006年 5月26日 JG0TEV 中村

25日から26日にかけて日本付近は高気圧に覆われ、26日には0~7エリア間のオープンが確認されました。



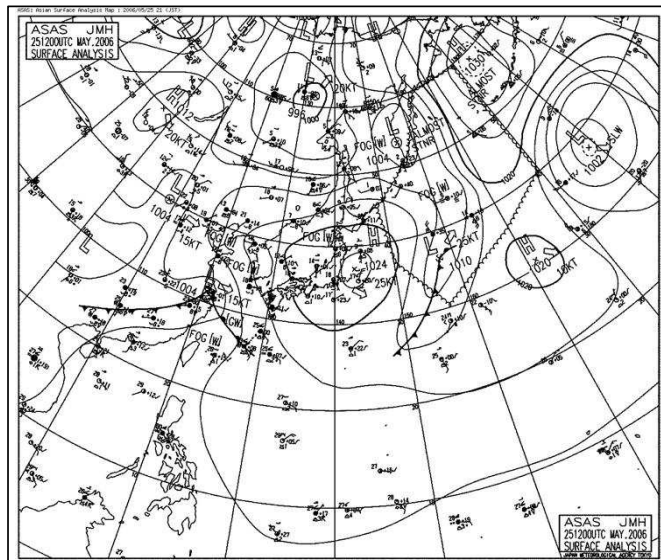
ダクト発生による7-0エリア間オープンが確認されました。
22:30 JHOINE(新潟県新潟市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS59-59
23:20 JA9CJL(富山県下新川郡)-J07IZC(秋田県にかほ市) RS55-59

気象解析

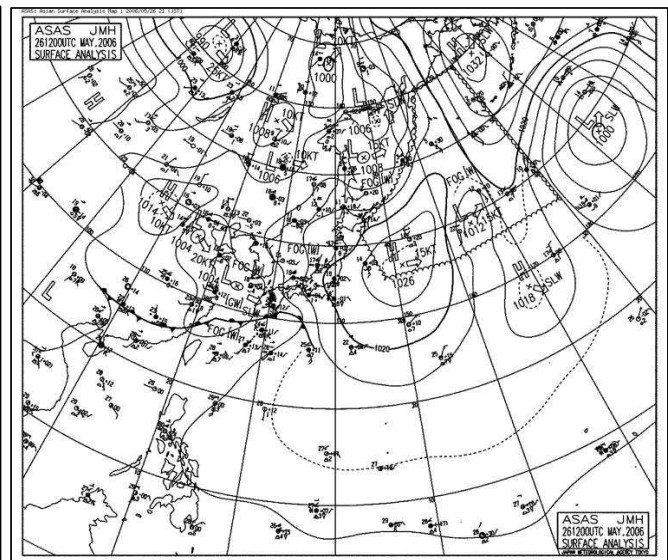
地上天気図から 25日から26日にかけて日本付近は勢力を強めた移動性高気圧に覆われたことがわかります。

地上天気図

25日21時



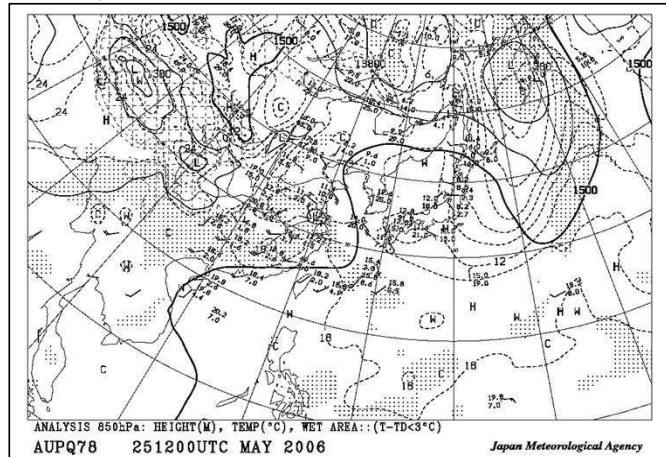
26日21時



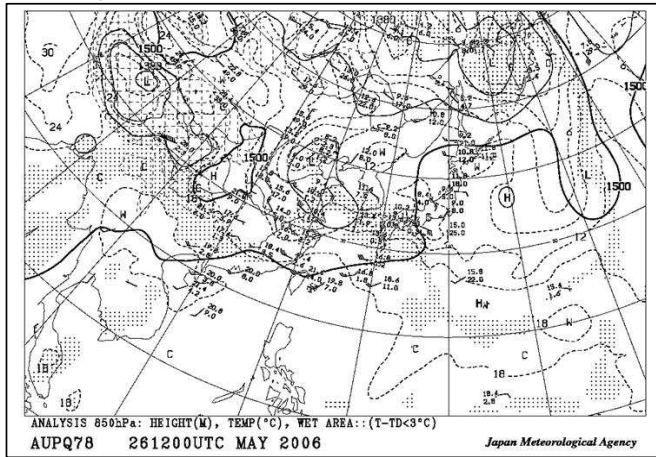
850hpa面解析図をみると、1,500mの等高線で囲まれた領域が日本付近を広く覆ったことがわかります。この等高線の南側では湿数が10℃以上であることから乾燥空気が流れ込んでいたことがわかります

850hpa面高度・気温・湿数

25日21時



26日21時

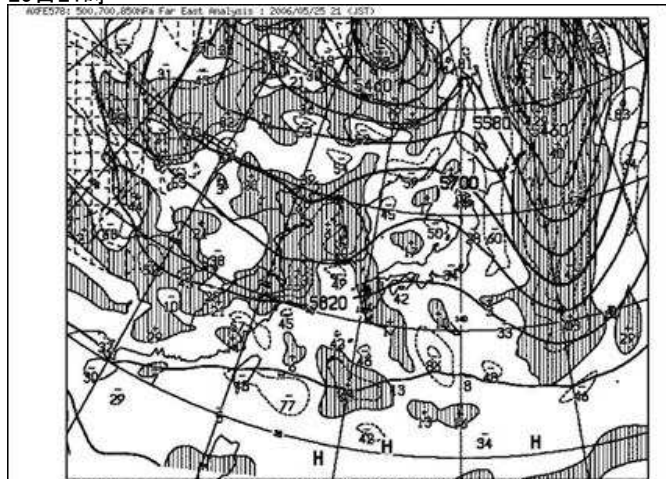


500hpa面の等高線の移り変わりを見ると、25日にリッジが日本付近を通過して、リッジに伴う負渦度領域に覆われていたことがわかります。

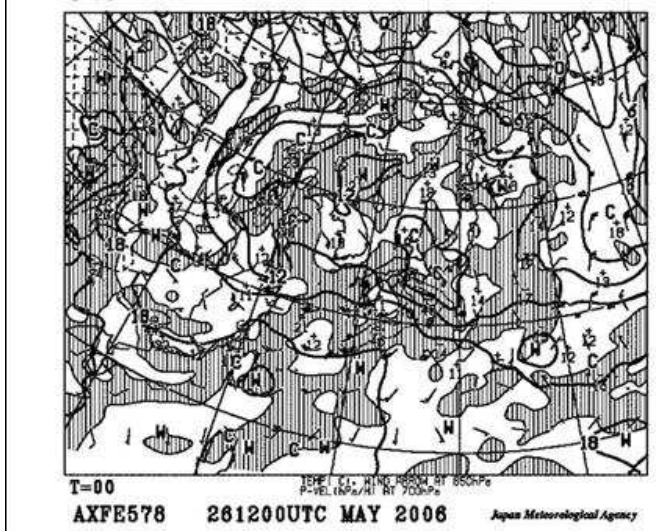
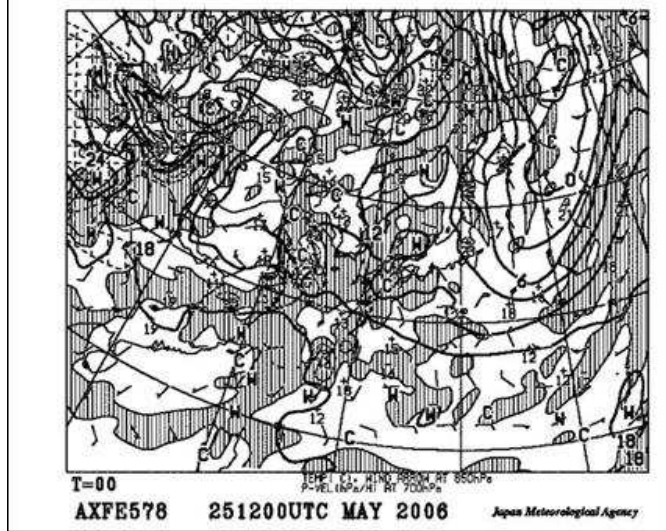
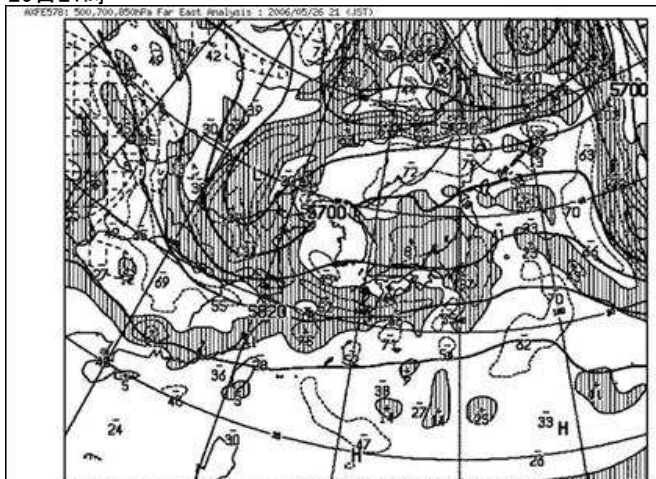
700hpa面解析図では鉛直流は上昇流の卓越が見られますが、乾燥空気を伴った南よりの暖気移流によって空気全体があたまったことによって上昇流が発生しているもので、ダクト形成に不利な条件ではないものと考えます。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温

25日21時



26日21時



25日の不発

負渦度領域、乾燥空気、下降流域とダクト発生の好条件が重なりましたが、気温上昇量が少なかったことでダクトの形成にいたらなかったのではないかと推定します。

26日のオープン

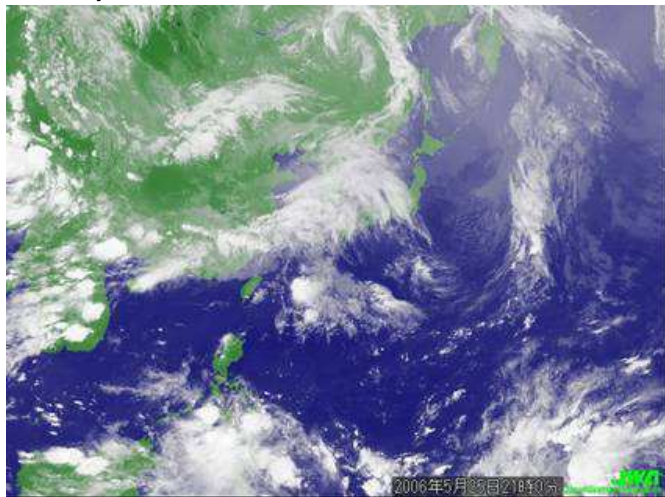
北日本では日中までを中心に高気圧に覆われ乾燥空気が流れ込み続けたと見られます。

高気圧に広く覆われた昨夜はダクト発生を確認できませんでしたが、時間的な遅れ発生によるものと推定します。

*翌、26日の午前中までは新潟県内も晴天が続きました。

【参考】赤外線雲画像

25日21時



26日21時

